

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2015 年 10-12 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲28 となり、前期と同水準となり、景気は停滞している。

来期は改善する指標がなく、景気後退が予想される。

2015 年 10-12 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 32%、「好転」とした企業は 4%で前回調査（2015 年 7-9 月期）と同水準となった。景況判断 DI は▲28 となり、前回調査と同水準となった。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲6 で、2015 年 7-9 月期から 9 ポイント改善
 - ・処理量 DI は▲5 で、2015 年 7-9 月期から 11 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は▲6 で、2015 年 7-9 月期と同水準
 - ・営業利益 DI は▲12 で、2015 年 7-9 月期から 8 ポイント改善
 - ・資金繰り DI は▲7 で、2015 年 7-9 月期から 2 ポイント悪化
 - ・借入難易度 DI は 3 で、2015 年 7-9 月期から 2 ポイント悪化
 - ・設備投資 DI は▲6 で、2015 年 7-9 月期から 4 ポイント悪化
 - ・従業員数 DI は▲1 で、2015 年 7-9 月期から 2 ポイント悪化
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲36 となり、8 ポイント悪化する見込みとなっている。
 - 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 2.2%増となった。
 - 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 1.9%減となった。
 - 経常利益率については、平均値が 4.90%（前回調査 4.92%）となった。回答割合は「5%未満」39.2%、「5-10%未満」15.1%、「10%以上」14.8%となった。
 - 経営上の問題点としては、「需要の停滞」25.0%（前回 23.6%）、「同業者相互の価格競争の激化」19.1%（前回 18.8%）と引き続き上位となった。「従業員の不足」が前回の 4 位から 3 位に上昇している。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

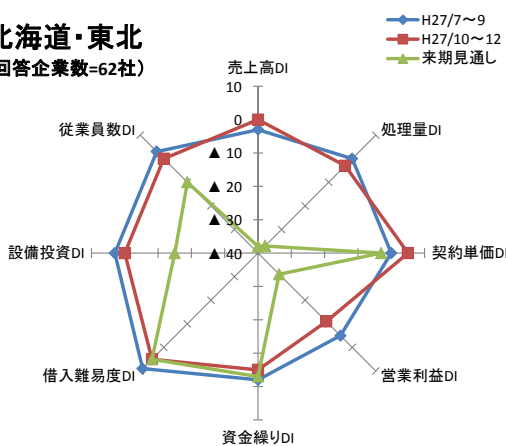
※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

〔調査の要領〕

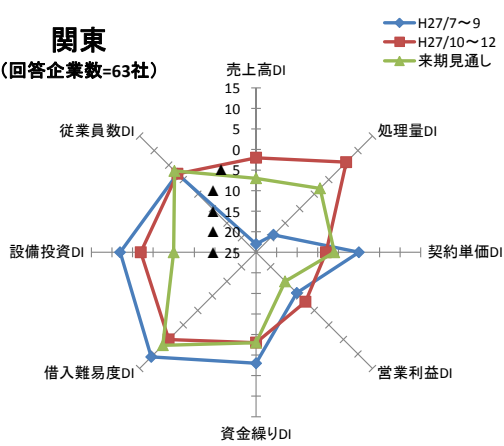
- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 28 年 1 月 14 日～2 月 19 日
- 回答企業数：417 社

【地域別レーダーチャート】

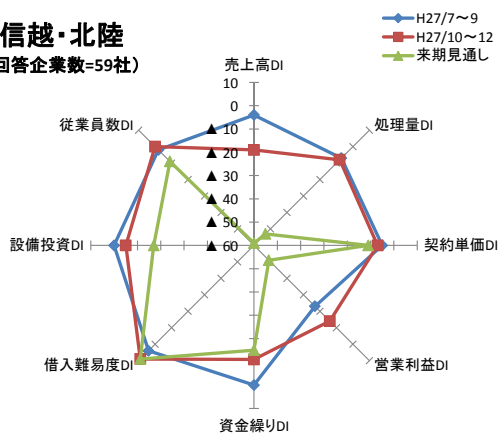
北海道・東北 (回答企業数=62社)



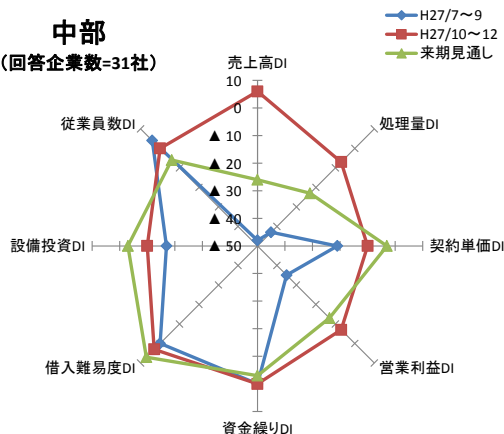
関東 (回答企業数=63社)



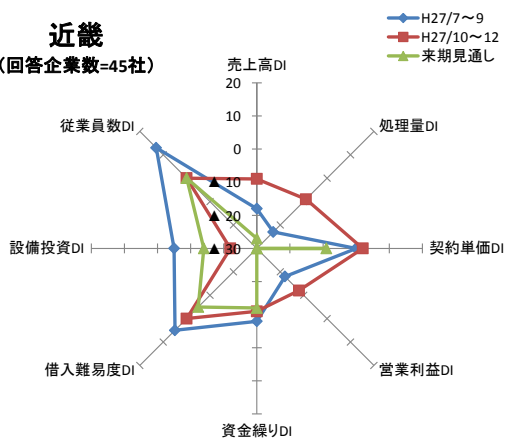
信越・北陸 (回答企業数=59社)



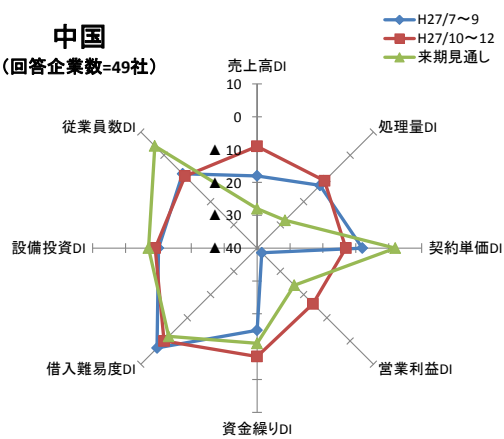
中部 (回答企業数=31社)



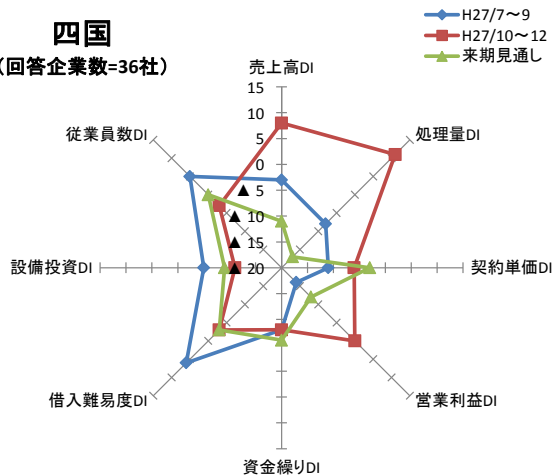
近畿 (回答企業数=45社)



中国 (回答企業数=49社)



四国 (回答企業数=36社)



九州・沖縄 (回答企業数=72社)

